

様式 1

研究報告書（平成 28 年度）

提出者 川本 彩花

提出年月日 2017 年 3 月 29 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 音楽都市〈楽都〉の形成と地域振興に関する比較社会学的研究

英文 A Comparative Sociological Study of Constructing the Representation of Music City
and the Regional Development

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

近年、文化行政の予算削減や市場化の圧力などを背景に、「芸術」の芸術的価値のみならず、広くその社会的な役割や価値が問われるようになってきている。こうした現代社会における「芸術」のあり方の変容（＝芸術至上主義のゆらぎ）をよりよく理解するためには、そもそも、なぜ／いかにして「芸術」という表象すなわち芸術至上主義が形成されたのかを、当該社会・時代との関係のなかで問いなおす作業が必要なのではないか。

このような問題意識のもと、これまで、芸術のなかでも音楽に焦点を当て、①芸術至上主義はいかにして 19 世紀西欧社会に出現したのかについて、ベートーヴェンを事例に、J. ハーバーマスの文化的合理化論を理論枠組みとして検証してきた。②また、芸術至上主義は現代日本においていかに受容されているのかについて、長野県松本市での調査（調査票調査）をもとに検討した。

これらをふまえて本ユニットでは、現代社会における「芸術」のあり方の変容（＝芸術至上主義のゆらぎ）に焦点を当て、その具体例として、文化・芸術を活かした地域活性化や青少年育成に関するプロジェクトの調査研究を進める。とくに本研究では、音楽都市〈楽都〉に焦点を当て、まず日本を主なフィールドにし、東アジア、さらには西欧へとフィールドを拡大しつつ、音楽都市〈楽都〉の地域表象（地域イメージ）の形成、および文化・芸術を活かした地域活性化の方策について考察していきたい。

【研究業績】 学会報告・論文など

◆研究会報告

川本彩花、「(科研関連ミニシンポジウム 海外でのフランス社会学受容について——スペイン、韓国、台湾を事例に) スペイン調査について」、第 33 回デュルケム／デュルケム学派研究会例会、奈良女子大学、2016 年 10 月。

川本彩花、「音楽都市〈楽都〉の形成と地域振興に関する比較社会学的研究」、京都大学アジア研究教育ユニット第 7 回学際融合コロキウム、京都大学、2017 年 1 月。

◆共同研究

「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か——デュルケム社会学を事例として」、2015～2018 年度科学研究費補助金（基盤研究 (B)、課題番号：15H03409、研究代表：中島道男(奈良女子大学))、2019 年 3 月まで研究協力者として参加。

【成果の概要】（800 字程度）

本年度の研究成果は、主に次のとおりである。

第 1 に、音楽都市〈楽都〉の形成と地域振興について、これまでに進めてきた先行研究の収集・再検討、および予備調査をもとに、文献・資料収集に着手した。音楽都市〈楽都〉の事例として着目している長野県松本市や宮城県仙台市の〈楽都〉をめぐる新聞・雑誌記事を収集するとともに、日本において〈楽都〉が唱えられるようになる時期やまちを調査していった。また、現時点での成果について、本ユニットの第 7 回学際融合コロキウムにて報告を行った。同コロキウムにおける報告および他の研究員との議論等を通して、さらに比較検討を深めていくための他の事例の可能性等についても示唆を得たため、これからの研究遂行に反映させていきたい。最近では、金沢を中心とした北陸エリアにおいて「風と緑の楽都音楽祭」が展開される予定であり、さらに注目していきたい。

第 2 に、2015 年から 2019 年まで、デュルケーム／デュルケーム学派研究会を拠点とした共同研究「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か——デュルケーム社会学を事例として」（2015～2018 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)、課題番号：15H03409、研究代表：中島道男(奈良女子大学)）に研究協力者として参加させていただく機会を得た。そして、とくに本年度は、2016 年 2 月に実施したスペイン・バルセロナにおける社会学教育に関する調査の結果について、第 33 回デュルケーム／デュルケーム学派研究会にて報告を行った。この成果をさらに発展・展開させて、日本の社会学教科書の分析を進めており、2017 年 4 月に研究報告を行う予定である。音楽都市〈楽都〉の形成と地域振興に関する研究とともに、今後さらに進めていきたい。

【通信欄】